

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271401269		
法人名	有限会社 薫風		
事業所名	グループホーム 陽だまりの家		
所在地	長崎県 南島原市西有家町里坊109		
自己評価作成日	平成 30年 9月 1日	評価結果市町村受理日	平成 30年 12月 4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成 30年 10月 22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1.音楽療法を取り入れており、残存機能の回復、維持を目標として行っている。又、音楽を通して入居者同士で共通の楽しみを持てる場にもなっている。</p> <p>2.併設に医院・老健・特養とあり、利用者とその家族をサポートすると共に、その時々合ったサービスを出るように努めている。</p> <p>3.町内外に関わらず、イベント・行事、ピアノ演奏会や高校の定期演奏会などにも出かけた。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>島原半島の南側に位置し、近隣には庁舎、医療機関があるなど町の中心的な立地環境の下に当ホームは存在する。医療機関が母体であることから入居者の小さな体調変化にも迅速な対応ができ、職員の細かな観察力によりその方に応じた相談先へ繋げられることが強みのひとつとなっている。今年度は法人の運営方針に変化があり、地域密着型特別養護老人ホームや院内での通所施設を開設するなど、高齢者の暮らしを支える活動に広がりを見せている。それにより他施設に通う友人との交流も可能となり、入居者の安心感や意欲向上にも繋がっている。職員は法人内や他事業所での学びの機会も多く、多職種との連携や多角的な視点で物事を考えられるなど質の向上にも活かされている。入居者の多様化に伴い、その場その時で対応方法の検討が必要となっているが、職員の温かな笑顔とチームワークによって入居者をサポートしており、今後ますます支援の展開が期待される事業所と言える。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 薄雲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟の玄関、事務所に掲示しており、全職員が協力し毎日のケアに生かし実践するように努める。	入居者らしく居られる場所の提供を意識した理念は、掲示したり職員会議毎に支援内容と照らし合わせたりするなど、全職員と共に振り返りがなされている。月目標を理念に沿った内容で設定し実践状況の確認や達成状況を評価しており、次に向けた具体的な目標を話し合う機会が設けられるなど理念の浸透が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内外の行事へ参加をしている。近所の方々と交流することもある。	ホームは、入居者・職員共に地域住民や法人内の老人保健施設・通所介護施設等との交流の機会が多くある。地域の高齢者によるホームへの慰問の機会を設けたり、福祉体験・介護職員初任者研修を通して認知症ケア技術や情報を発信したりしている。また、法人の夏祭りでは運営に参加するなど、地域との顔が見える関係づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の中学校、高校の職場体験等を積極的に受け入れ事業所が保有する、知識や経験を広げるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政職員、民生委員、地域の方、家族の方に参加してもらっている。その中ででた意見なども生かせるようにしている。又、ホーム内の状況、認知症関係の資料を作成し報告している。	運営推進会議では、ホームの現状や入居者の暮らしぶりを写真や資料を用いて参加者へ伝えており、課題や方針などの情報発信に加え、参加者との情報交換の場としても活用されている。今回、身体拘束廃止委員会の設置とその活動状況の周知が図られたほか、新しい情報・お知らせの報告機会も設けられ、今後も運営の透明性を意識して取り組む意向にある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種申請や事務的な相談など、日頃より協力を求め連携を図るようにしている。	管理者は、行政機関へ現状の確認を行い、権利擁護事業を利用している入居者のことや書類提出の際には助言をもらうなど、疑問や心配事への迅速な対応を心掛けている。また、ホーム運営については透明性や法令遵守に努めており、他機関への連絡・報告を行いながら良好な関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており、委員会を中心とし、勉強会等で個々の意識、理解を高め身体拘束のないケアを行っている。	ホームでは身体拘束廃止委員会が設置されており、毎月の職員会議で勉強会を行い、身体拘束行為の理解に努めている。勉強会では委員を中心に目標設定や反省・振り返りが行われ、職員間で行動抑制の具体的な行為や入居者の行動理由を共通認識し、住環境の整備と並行して該当する行為の廃止に向けて取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より虐待防止についての研修会をおこなっている。日々の申し送りでも身体拘束にあたる行為、言葉遣いが適切であったか等、話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の担当者に相談したり、研修会への参加で制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の時は、家族や利用者様の疑問点や不明な事を聞き取り、御理解、納得できる説明をし、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、会議の参加時に要望等がないか聞き取り、利用者の生活の質の向上や、家族の安心につながる様にしている。また意見箱の設置も各棟の玄関にしている。	職員は、面会時や入居者との関わりの中で家族の意向を汲み取りながら、それぞれが抱える希望や要望を支援に繋げるよう努めている。入居者や家族へは、その人らしい暮らしをサポートする姿勢で関わりを持ち、年齢を重ねる毎のその方の個性と向き合いながら、できる範囲で入居者家族と共に支援していくよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来るだけ多くの職員が参加し、意見出来るよう、月一回のペースで職員会議を行っている。参加できなかった職員でも、送り帳などで周知出来る様努めている。	法人理事や管理者は日常的に現場で入居者や職員と関わりを持ち、小さな変化や声を集約しながら運営に反映させている。職員同士での声を掛け合う頻度も多く、業務の困難さもお互いに補い合う関係性が構築されている。働き方や資格取得に向けたバックアップ体制や、全職員が各委員会に属することでスキルアップの向上にも繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内外の研修参加を積極的に参加できる環境である。又、研修費や諸経費の援助があり協力的である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連する施設の合同研修会、合同委員会の参加をすすめ、外部での研修や、資格習得の為にバックアップもあり、協力的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長会議への参加を定期的に行っている。その時に意見交換や、レクレーションや外部研修の情報交換など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始するに当たり本人の要望、困っている事を聞き取り不安を取り除く様に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や意見など困っている事を傾聴し、ケアプランの作成時に確認し反映している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時どんなサービスが求められているのか、対応出来るのか検討し必要とされる支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に共同生活を行っている者として、利用者の支えになりたいと思っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への電話連絡を含め面会の機会や、家族との外出や外泊の支援など接する時間を増やせるように考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の面会も有り会話を楽しんで頂く事もあり、行きつけの美容室の利用・墓参りや家族との会食など交流が出来る様に支援している。	ホームは、法人内に通所施設や特別養護老人ホーム、老人保健施設等地域の介護拠点施設があり、リハビリや行事等の際には他施設への行き来が可能な環境にある。各施設の職員は、入居者の友人・知人との繋がりが途切れないよう対人関係の把握に努めており、施設間の交流によってその方が大事にしてきた関係性が入居後も継続できるよう取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に同じ時間を過ごす事により、生活を共にする仲間だと言える様に関係を作り上げる手助けになるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	空室状況・生活保護の申請等状況に応じ対応している。入院されている場合は、お見舞いなどに行き家族とのコミュニケーションに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活状態や習慣等を理解して介助している時には、ジェスチャーを用いてコミュニケーションを取る事もある。	職員は、入居者の今までの生活の流れを壊さないよう主体性を持って生活して頂くよう努めており、日課や過ごし方などの個性も大事にしている。職員は入居者との会話を大事に捉えており、心身の状態によって抱く不安や焦りに寄り添いながらその方に応じた言葉のかけ方や距離感を保つよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活を知ることにより少しでも在宅されていた状態に近付ける様、また馴染みの物を使用していただいたり、食習慣にも気を配るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分らしく生活が出来る様努めている。本人が出来る事出来ない事の把握を行い、自立支援に努めたケアを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の生活状態や希望・家族の希望を基に課題や目標を考え実践につなげ、モニタリングを定期的に行い次のプランへ繋げている。	ケアプランは面会時等に家族と本人の意向を確認し、生活の中で実践しやすい支援内容となっている。また、内容を分かりやすい言葉にすることで本人・家族が圧迫感を感じないような配慮もなされている。職員間で支援の実施状況を確認・評価し、次回プランへと繋いでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテに生活の状況や出来事を記入している。情報を職員間で共有し支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連施設で行われる催し物の参加や買物・病院・美容室などの送迎など希望されるサービスに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉体験学習や初任者研修の施設実習生を受け入れている。地域が主催する行事等には進んで参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報共有を特に重視し連携をとっている。定期受診の予定も常に職員が把握して、それに合わせた段取りを組んで支援している。	母体法人が医療機関であることから、かかりつけ医や医療連携看護師と日常的に連携が図られている。また、家族の面会毎に内服薬の変更や治療方針の同意等を伝えており、体調変化の際には家族の意向を確認しながら支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体となる医療機関との医療連携により健康チェックを行い、早期発見や症状の変化を観察している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は、入院先の医療機関と情報交換を行い、退院後の適切な支援に向けて家族や主治医との話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化や終末期を迎えるに当たり、家族の意見を確認し、当事業所において出来る事・出来ない事等を説明し話し合いを行い、本人・家族の希望に添ったケアが出来る様、チームで取り組んでいる。	看取りについては、入居者の医療ケアの比重が高くなった際には家族の意向を確認し、家族・医師・職員と共に本人にとって暮らしやすい場所への住み替えを検討されている。ホームでは口からの摂取が少しでも可能となるよう嗜好品等を家族へ相談し対応されており、必要に応じて法人栄養士の助言を受け、食事形態に変化をつけるなどの専門性も取り入れられている。家庭的な雰囲気での暮らしが継続できるよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が勉強会に参加したり消防署での研修を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年2回・火災を想定した訓練や消防署による指導を受けている。非常食の備蓄について、保管場所と量について検討を行った。自然災害時の避難経路図や防災計画について作成している。	ホームは、昨今の風水害の状況から雨量や竜巻などの天候の変化に注意を払っており、入居者の不安を和らげる対応に留意している。立地上水はけに課題があるが、点検や手入れ等自分たちでできる予防策に取り組んでいる。今年度はユニット毎に備蓄品を整備し、更なる防災意識の向上が図られている。また、職員や出入り業者の中に消防団員がおり、良好な関係が築かれている。また、消防署からの指導も実直に捉えるなど、入居者の安全性を高める取り組みがなされている。	ユニット毎に食料品、緊急連絡先(一覧表)、お薬手帳の準備や管理がなされているが、防寒具を始めとする備蓄品の不足や情報の分散化が窺われる。今後入居者の状態に合わせた備蓄品を職員間で話し合い、避難受け入れ先でも入居者情報伝達が迅速に行われるよう、情報を一本化(写真:顔・全身、かかりつけ医、既往症を一括ファイリング)するなど更なる安心に繋げる体制づくりに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重し、その方に合った言葉掛けが出来る様に注意している。安全を考慮し、信頼関係を築きながらケアしている。	ホームは身体拘束廃止委員会を中心に接遇に関するの振り返りを行っており、その方に合った対応の仕方を職員の言葉遣い・立ち振る舞い等を確認しながら検討されている。職員は入居者一人ひとりの暮らしの意向を理解し、本人・家族間の関係性も考慮しながらプライバシー保護に留意した対応に努められている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が生活の中で思いを表現出来るようにコミュニケーションをとっている。自己決定が出来るように心がけ、わかりやすい表現で言葉かけを行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの方の生活パターンを把握し、その人らしい生活を送ることが出来る支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の方に相談しながら衣類を選んでもらっている。着替えを楽しまれたりとその人に合った服装になるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節を感じる事が出来るよう旬の食材を使うように心掛け、行事等に合わせた食事内容にするなど入居者の希望も取り入れながら提供している。簡単な下準備を手伝ってもらっている。	食事は旬の食材や地元野菜を多く取り入れた家庭的な雰囲気を感じさせるものとなっており、入居者とともに準備されている。また、入居者の嚥下状態や希望に応じた異なる調理方法で適温で提供され、香りや盛り付けも丁寧に施されている。病状の進行により食事摂取が困難となった場合、食事形態が変化した場合にも食欲が湧くような環境づくりや彩り・食感を大事にした工夫を凝らす等の配慮がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の健康状態を把握し栄養管理を行ない、それぞれの方に合わせた食事形態での提供を行っている。水分補給には、その方が好まれる飲み物を用意し、水分量も把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけを行なっている。自分で出来ない方には介助でケアを行なっている。その他、必要な物品があれば用意・使用してケアを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をとり、排泄パターンを把握し、自立で排泄出来るように支援している。	ホームは、入居者が持つ心身機能を適切に評価し、一人ひとりに応じた排泄方法を検討しながら自尊心や尊厳を損なわないケアに努めている。排泄に関わる職員は、入居者が人の手に自分を委ねる心情を理解し、介助中の視線の配慮や自分でやりたいとの意向を把握しながらその方に応じた対応や理解に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立に乳製品や野菜など食物繊維を多く含む食材を取り入れている。運動については、日常生活の中で出来ることを行なって頂いている。テレビ体操なども行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	すべての希望に対応する事は、なかなか難しいが、出来るだけ希望に添えるように努めている。入浴日以外でも、必要に応じ入浴、シャワー浴を行っている。	職員は、入居者それぞれが持つ入浴へのこだわりを理解し、湯温の調整や室温など入浴環境を整えながらその方の思いに添った入浴ができるよう支援に努めている。入居者の心身の状態に応じて必要な支援も異なることを把握し、職員間で介護技術や入浴のタイミングなど共通理解を図りながら、その方が安心して入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や身体状況等を把握・考慮し、安心して休むことが出来る用に支援している。不眠の方に関しては、かかりつけ医院に相談し、受診している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医院と連携し管理を行なっている。薬について処方時に確認を行なったり、服用後に異変が見られた場合はかかりつけ医院に相談している。服薬については、確薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、その方が無理なく出来ることや好まれる事を探し出し、楽しみや喜びを持った生活が出来るよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と連携・協力をしながら通院・買い物・美容室・外出等の希望に応じ支援を行なっている。車いすの方でも、ドライブやイベントなどに出かけられるように支援している。	高齢化や心身の状態によって行動の縮小がみられる入居者も多い現状にあるが、天候によってホーム周辺の散歩や法人内各施設で行われる行事や音楽療法に出かけ、気分転換が図られている。ホームに面する大きな窓からは地域住民が畑の手入れをする様子を眺めることができ、外への関心を引き立てながら、できるだけ閉じこもりの生活にならないよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、使用される範囲で所持され希望があれば馴染みの店などでの買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様より電話をかけたいと申し出があった場合、また家族等より電話がかかってきた場合は、支援を行なっている。手紙についてはポストへの投函を受けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある展示物や花々を飾っている。証明や室温についても気を配り快適に過ごして頂けるように心掛けている。	ホームには共用空間に大きな窓があり、そこからは車椅子に腰掛けていても車の往来や四季の移ろいを眺めることができ、地域の人々が生活する様子を感知することが可能となっている。また、日が昇る頃には普賢岳に手を合わせる入居者の姿もあり、日光浴を楽しむ入居者や丸テーブルに腰掛けて見える景色を共有するなど、それぞれが居心地の良い場所を自ら見付け寛ぐ場が準備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室でくつろいだり、外へ出て花を眺めたり、外で飼っている犬に声をかけたりされている。また気の合った方同士で食事でお話をされたり居室でテレビを見たりして自由にされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に今まで使用されていた物や使い慣れた家具などを持ち込めるようにしている。本人様にとって居心地の良い空間を作れるように努めている。	居室は、入居者が混乱しないよう今まで使用されていた品物が持ち込まれ、家具の配置や生活動線に配慮がなされている。寝具の色合いや手回り品、テレビや家族の写真など、使い慣れたものを目印に自室であることを認識し、その方らしく、またその方にとって大切なものを家族と相談しながら居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・入浴所・居室等など誰にでも分かるように表示している。バリアフリーや手すりにして安全な生活環境作りを行なっている。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 若菜

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟の玄関、事務所に掲示しており、全職員が協力し毎日のケアに生かし実践するように努める。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内外の行事へ参加をしている。近所の方々と交流することもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の中学校、高校の職場体験等を積極的に受け入れ事業所が保有する、知識や経験を広げるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政職員、民生委員、地域の方、家族の方に参加してもらっている。その中で意見を生かせるようにしている。又、ホーム内の状況、認知症関係の資料を作成し報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種、申請や事務的な相談など、日頃より協力を求め連携を図るようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており、委員会を中心とし、勉強会等で個々の意識、理解を高め身体拘束のないケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より虐待防止についての研修会をおこなっている。日々の申し送りでも身体拘束にあたる行為、言葉使いが適切であったか等、話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の担当者に相談したり、研修会への参加で制度の理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の時は、家族や利用者様の疑問点や不明な事を聞き取り、御理解、納得できる説明をし、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、会議の参加時に要望等がないか聞き取り、利用者の生活の質の向上や、家族の安心につながる様にしている。また意見箱の設置も各棟の玄関にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来るだけ多くの職員が参加し、意見出来るよう、月一回のペースで職員会議を行っている。参加できなかった職員でも、送り帳などで周知出来る様努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内外の研修参加を積極的に参加できる環境である。又、研修費や諸経費の援助があり協力的である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連する施設の合同研修会、合同委員会の参加をすすめ、外部での研修や、資格習得の為にバックアップもあり、協力的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長会議への参加を定期的に行っている。その時に意見交換や、レクレーションや外部研修の情報交換など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の聞き取り連携機関との情報の共有、又 家族、本人からの意向を伺い、信頼関係を築き、安心して頂ける環境を作っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の意向、不安等ないかお聞きし、スムーズに支援へ活かせる様対応をしている。又、近況報告をお伝えし、日々の支援へ繋げ、安心し安全な生活空間を提供している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族、本人が必要とされている事案に対し、迅速に対応し、サービスの方向性を見極め、支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様本位であり、温かく家庭的な環境作りを行い、互いに話し合い、納得して頂ける支援へ繋げ、自立支援へも働きかけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況に応じて、支援が行なえる様、利用者様家族との連携をとり話し合い、又、家族が訪問しやすい環境作りにも、職員は配慮している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	夏祭り、産業祭等地域の行事へも足を運び、馴染みの場を築いている。又、家族への声掛け、お知らせを行い、参加の依頼を行っている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の状況に応じた場面を作り、安心して支え合い生活ができる事、又、石川HPリハビリへ行かれ、地域の方との、交流を楽しみにされている方もいらっしゃる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気軽に、ご相談して頂ける様、声掛ける等、フォロー等を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の意向に耳を傾け、尊重し日々のケアへ反映出来る様、申し送り等を密に行い、情報の共有を行っている。困難なケースは家族との情報の共有も行っている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしが継続出来る様、家族や本人からの聞き取りを行い、サービスの提供を行っている。家族が話しやすい環境である様、職員も心掛けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りを活用し、現状把握に努め、担当者会議、モニタリング等の評価も含め、プラン作成へ等へも繋げている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の把握を確り行い、モニタリング、アセスメントへの記録を行う。利用者様本位であり、家族の意向、医療機関、職員の意見を反映、変化時は随時対応をしている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りの活用、記録を行い、日常の気付きは、話し合い実践へと結びつけている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望に近づける様、利用できるサービスを探し、外出や受診を支援したり、御夫婦での入所の受け入れをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉体験学習や初任者研修を受け入れ、地域が主催する行事等、積極的に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携をとり、適切な医療を受けられる様、本人や御家族の希望を大切にし支援を行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常日頃から、利用者様の状態を観察し、看護職との連携を行い、適切に受診が出来る様努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、入院先病院との情報の共有を行い、退院時も家族と主治医と相談し 本人にとって適切なケアが行なえる様努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を向えられた際は、御家族の意思を確認して、当事業所が出来る事等を説明し、御家族と話し合い、主治医の指示のもとケアを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が勉強会に参加し消防署での研修も受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年二回、消防避難訓練を行ない、消防署の指導を受け改善に努めている。又、地震、水害時の避難経路図や、防災計画書を作成し、非常食を備え、定期的に確認、交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、一人ひとりに応じた言葉掛けを行い、安全面やプライバシーを考慮しながら、ケアを行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表現出来る様にコミュニケーションを取り、自己決定が出来る様、わかりやすく言葉かけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが出来る様一人ひとりの生活パターンを把握し、希望に添った生活が出来の様支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服や季節に応じた服を用意してもらい、本人の希望に合わせ、おしゃれが出来る様支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使用し、季節感のある食事や、行事に合わせた食事を準備し、楽しく食事が出来る様支援している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を把握し、栄養管理を行い、個々に合った食事形態を提供している。又、自力摂取が出来る様、食器やスプーン等馴染みの物を使用していただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、見守りや一部を介助し、出来ない方は職員で行い、口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を取り、排泄パターンを把握し、間隔があくと声掛けを行い、自立で排泄を促す様にしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には、バナナや牛乳を提供したり、食物繊維の多い食材の活用や、水分不足にならない様心がけ、10時や15時等のお茶の時間等を利用し簡単な体操等を取り込んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望や支援に応じた対応が出来る様配慮を行っているが、夜間帯や、状況によっては難しい事もある		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣を把握し、個々、日々の状況に応じて支援を行い、夜間は安眠出来る様に生活のリズムを整え 昼夜逆転防止にも努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往歴や 病状等を把握した上で、日々の健康管理を行い、服薬の用法、副作用等の理解に努めている。症状に変化が認められる場合は、医療機関との連携をはかっている。服薬は必ず確薬を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人らしく生活が送れ、支え合い、喜びや楽しみを共感し合える生活空間を提供し、個々の楽しみを持てる様に支援を行なえる様に、努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に添える外出等の支援を出来る様な体制を整えている。又、本人の状態や体調を見て家族とも相談しながら、可能な範囲で行うようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望を取り込み、家族との相談を行いながら、自分らしく生活が送れる様支援を行っている。基本金銭の預かりは行わない様にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の希望を伺い、利用者からの申し出があれば、電話や手紙等の対応支援を行う様にしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、利用者が不快や混乱を招かない様に、季節に合わせた温度調整を行っている。又圧迫感が無い様にすると共に、季節が感じられる植物や装飾を行う様に心掛けている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御夫婦の利用者がおり、二人で自由に過ごせる居室や席の配置をおこなっている。テレビの横にソファを設置しており、好きな番組を見たり、利用者同士お話をされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた、馴染みの物を持ち込める様にしている。本人の状態に合わせた配置を行い、過ごしやすい生活空間を提供する様にしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態や状況にあった居室配置を行っている。ホーム内は、バリアフリーになっている為、安全に過ごせる構造となっている		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 紅梅

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各棟の玄関、事務所に掲示しており、全職員が協力し毎日のケアに生かし実践するように努める。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内外の行事へ参加をしている。近所の方々と交流することもある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の中学校、高校の職場体験等を積極的に受け入れ事業所が保有する、知識や経験を広げるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、行政職員、民生委員、地域の方、家族の方に参加してもらっている。その中で意見を生かせるようにしている。又、ホーム内の状況、認知症関係の資料を作成し報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	各種申請や事務的な相談など、日頃より協力を求め連携を図るようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置しており、委員会を中心とし、勉強会等で個々の意識、理解を高め身体拘束のないケアを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より虐待防止についての研修会をおこなっている。日々の申し送りでも身体拘束にあたる行為、言葉使いが適切であったか等、話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の担当者に相談したり、研修会への参加で制度の理解に努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の時は、家族や利用者様の疑問点や不明な事を聞き取り、御理解、納得できる説明をし、契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、会議の参加時に要望等がないか聞き取り、利用者の生活の質の向上や、家族の安心につながる様にしている。また意見箱の設置も各棟の玄関にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	出来るだけ多くの職員が参加し、意見出来るよう、月一回のペースで職員会議を行っている。参加できなかった職員でも、送り帳などで周知出来る様努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設内外の研修参加を積極的に参加できる環境である。又、研修費や諸経費の援助があり協力的である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連する施設の合同研修会、合同委員会の参加をすすめ、外部での研修や、資格習得の為にバックアップもあり、協力的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長会議への参加を定期的に行っている。その時に意見交換や、レクレーションや外部研修の情報交換など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の方とゆっくり話し、利用者の方が自分から話しやすい対話を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の方、家族の方の要望に直ぐ応えられるよう、アセスメント、ケアプラン作成時に確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、入所時にどのようなサービスが適しているか、後にどんなサービスが必要になるか考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立で出来る事を見つけ、継続して出来る様支援する。進んで手伝いなどが出来る環境をつくる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ多くの時間を過ごせる様、外出支援やホームでの宿泊も出来る様支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族や友人、知人の面会がしやすい環境を作り、馴染みの店などにも外出できる支援をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の残存能力を把握し、役割をもって出来る事をお互いに助け合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケガや治療が必要な退所となった場合でも、再入所出来る様、居室を確保している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの希望や意向は聞き取りを行い、ケアに努めている。困難な場合は、個人の表情を見ながら利用者主体に考える。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に十分聞き取りを行う様にしているが、面会時などに家族に新しい情報を聞いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、個別の日課を把握し心身の状態や出来る事出来ない事について十分把握している。変化や移乗に気付く様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所に合わせ事前に情報収集し、暫定プランを立て、本人の希望、家族の希望を取り入れ定期的にモニタリングを行い検討者会議等にて今後のプラン作成についての話し合いを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のカルテに日々の生活記録を記入し申し送りなどで情報を共有し、意見を出し合いながら良いケアの提供、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関連施設でのリハビリテーション、家族宿泊、買い物の衣類など満足して頂けるように柔軟に対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	みそ五郎祭り、夢織りの里・夢の里の夏祭りなどへ行かれたり、地域が主催する行事には積極的に参加できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望を大切に、主治医と相談しながら適切な地域医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームでは、医療連携体制を整えている。またすぐ近くには、石川医院があり連携を密にしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は病院へ行きスタッフとの情報交換を行っている。退院できる状態になった場合は、主治医と相談し、利用者が安心出来る様連携を図る		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のケアについては、主治医が家族に対して当事業所において出来ない事は説明と同意を得る。医療機関との連携を密にしてチームケアを提供する。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、関連施設と合同で勉強会を行い知識と技術の向上に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎年二回、消防避難訓練を行ない、消防署の指導を受け改善に努めている。また、地震、風水害の避難経路図や防災計画を作成し、非常食を備え定期的に確認、交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族関係や生活歴を把握し、入居者様それぞれに応じた声掛けや接し方を行っている。入浴や排泄、パット交換の際にはトイレや居室の戸を閉め、安全面に注意しながらプライベートを確保している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを行い日常会話の中でも、本人の希望や、自己決定が出来る様に支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事などの日程は、決まっているが一人一人が自分のペースで生活できるように趣味や性格などを家族や本人と話しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に確認し、衣類を選んでもらっている。季節に合わない衣類を着られる方には声掛けし、説明を行い支援している。特に音楽療法や外出する時は、気を付けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感のある食事を提供している。ツワ剥きなどをお願いすると喜んで手伝ってくださる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量が少ない方がいる時は、食事量を記載し、職員全員が把握できる様にしている。その時々熱いお茶か、冷たいお茶を飲みたいか本人に確認し飲んでもらっている。好き嫌いを把握し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、誘導行い、口腔ケアセットの準備を行っている。又、自立で出来ない方は、介助を行っている。歯磨き粉やポリドント、ポリグリップなどの購入支援も手伝っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をとり、声掛けし自立で排泄を促す。車いすの方もトイレへ行き介助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時はバナナや牛乳を提供し献立を工夫している。運動は、無理にならない様に出来る範囲で行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望があれば、それに応じた時間で対応したり、温度管理やその人のペースで入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて休息してもらい、周囲の環境をよくして気持ちよく眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療と連携して内服管理を行っている。又、服薬は、間違わない様に声かけして確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	無理のない様に出来る範囲で手伝ってもらったり、趣味などの楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院や買い物の希望があれば家族との連携を取りながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は、家族と相談し所持してもらっている。買い物に同行や代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り次ぎを行い、申し出があった時は電話を掛けて頂く。個人で携帯を持たれている方は、捜査が分からなかったり、着信に気付かれない時もある為、時々一緒に確認をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や入口、食堂などに季節の花々を飾っている、外の景色でも季節の移り変わりが分かる。室内や居室など快適に過ごせるように温度管理を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一緒に食堂でテレビを観たり、気の合った利用者同士で話をしたり楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具やベットを使用する事も出来る。本人の希望を取り入れ居心地の良い居室にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室などは、分かるようにしている。通路など、物を置かず、安心して通れる様に安全に努めている。		